

NAKANOSHIMA
MUSEUM
OF
ART,
OSAKA

中之島 2021

アートが動くまち。

アートが動かす大阪。

大阪の中核、そして水都のシンボル中之島にいよいよ新しい美術館が誕生します。

古くから大阪の経済と文化を支え、育んできたこの地にふさわしい

発信力と創造力をもつプラットフォームになりたい。

作品・資料の収集、研究、公開および保存という美術館の基本的機能に

さまざまな連携と交流を織り込み、市民に向かい真にひらくとともに、

この都市の新しい、そして力強いエンジンになりたい。

この思いを胸に、私たちは2021年度へとあゆみを進めています。

大阪中之島美術館準備室は、2014年に策定された「新美術館整備方針」に

掲げられたコンセプトを踏まえ、美術館活動の方向性を次のように描いています。

1 佐伯祐三や吉原治良に代表される大阪が育んだ作家の作品を中心とした
第一級のコレクションを活かし、国内トップクラスのミュージアムをめざす

2 「大阪と世界の近代・現代美術」をテーマとするミュージアムとして
市立美術館や東洋陶磁美術館にはない、新たな魅力を創造する

3 歴史的にも文化的にも豊かな蓄積をもつ中之島を拠点として
文化の振興や都市の魅力向上に貢献する

4 民間の知恵を最大限活用しながら、
顧客目線を重視し利用者サービスに優れたミュージアムとする

20世紀から21世紀へ

2021新しい美術館の挑戦

2021年度に開館を予定している中之島の新しい美術館が、いよいよオープンに向けて本格的に歩を進めます。

1990年に準備室が設置されてから四半世紀もの年月が過ぎ、

めざすべき美術館像は時代の流れのなかで変わっていききました。

21世紀に誕生する美術館として、いま、そして未来の大阪、日本、世界のなかで

どのような役割を担うべきなのかを模索してきました。

value for tomorrow

〈未来の価値創造〉あしたの美術館 | あしたのための美術館

19世紀後半から21世紀までの美術とデザインの流れをあつかう美術館として、
作品を収集・保存し、歴史や意義を研究、提示するにとどまらず、その新たな価値を見だして未来へ伝える役割を担います。
ひとつひとつの作品が秘める価値は、時をこえて、未来の新たな創造の源になります。
いまを生きる人びとが鑑賞や参加の体験を通して自分なりの〈価値〉を発見できる美術館になることをめざします。

challenge for the new

〈これまでにない〉をうみだす場所

古くから大阪は既成の枠や考えにとらわれないユニークな大都市として知られてきました。
柔軟な眼と心を持ち、21世紀の大阪に生きるわたしたち自身の価値観をつくりだしたい。
アートに出会う人が自分の視点で見て、感じることでできる場になりたい。
美術館という枠にとらわれず、さまざまな人とつながり、共に活動したい。
大阪に根ざした進取の気風にならない、〈これまでにない〉をうみだす美術館になることをめざします。

passage in your life

暮らしのなかの〈パッサージュ〉

新しい美術館は、美術に興味がある人もない人も、その空間と機能を楽しめる〈パッサージュ〉〈遊歩空間〉となることをめざしています。
ぶらりと立ち寄る人も、目的をもって来る人も、大人も子どもも、日本人も海外からの訪問者も、
多様な人びとが、それぞれ仕事や学校、家庭など日々の営みから抜け出して、美術に囲まれた少しだけ特別な空気にふれてほしい。
そしていつか、美術館の活動に参加してくれることを期待しています。
堂島川を望む水辺のエリアで、訪れる人が憩える中庭のような空間になることを願っています。

art & culture in Nakanoshima

〈中之島〉を楽しむ

オフィスや公共施設、文化施設などが集まる中之島は大阪の中心部にあり、江戸時代には各藩の蔵屋敷が並ぶ歴史的な場所として栄えました。
新しい美術館の南隣には国立国際美術館と大阪市立科学館があり、徒歩圏内には中之島香雪美術館があります。
もう少し東へ進めば大阪市立東洋陶磁美術館が位置します。
これらの施設とともに、訪れる人が〈中之島〉で過ごす時間を楽しめる、豊かな芸術文化ゾーンとしての魅力を高めていきます。



【上】国枝金三《中之島風景》(部分)1927年 【下】池田蓬郵《雪の大阪》(部分)1928年

コレクションの

概要

新しい美術館では、19世紀後半から今日に至る日本と海外の代表的な美術作品を核としながら、地元大阪で繰り広げられた豊かな芸術活動にも目を向け、約4,600点のご寄贈と約1,100点の購入をあわせた約5,700点のコレクションを所蔵しています(2019年3月|寄託品を除く)。

コレクションは、洋画、日本画、海外の近代絵画、現代美術、版画、写真、彫刻、デザインなどの領域にわたります。

とりわけ佐伯祐三の名作、モディリアーニの裸婦像、

具体美術協会のリーダー・吉原治良の作品、海外作家の代表作などは、国内外で高く評価されています。

これらの作品はコレクション展を中心に、市内外で開催してきた60回を超える展覧会で皆さまにご覧いただいております。

また、収蔵品の貸し出しも行い、のべ3,000点以上もの作品が

これまで国内と海外の美術館のべ800ヵ所以上に出展されてきました。

貴重な寄託品も寄せられ、2012年にはサントリーポスターコレクション(約18,000点)が加わることで、すでに収集している家具や食器などとともに世界有数のデザインコレクションが形成されました。

開館後もさらなるコレクションの充実を図ってまいります。

収集方針

- ▷ 佐伯祐三を中心とする近代美術の作品と資料
- ▷ 大阪と関わりのある近代・現代美術の作品と資料
- ▷ 近代・現代美術の代表的作品と資料
- ▷ 大阪と関わりのある近代・現代デザインの作品と資料
- ▷ 近代・現代デザインの代表的作品と資料

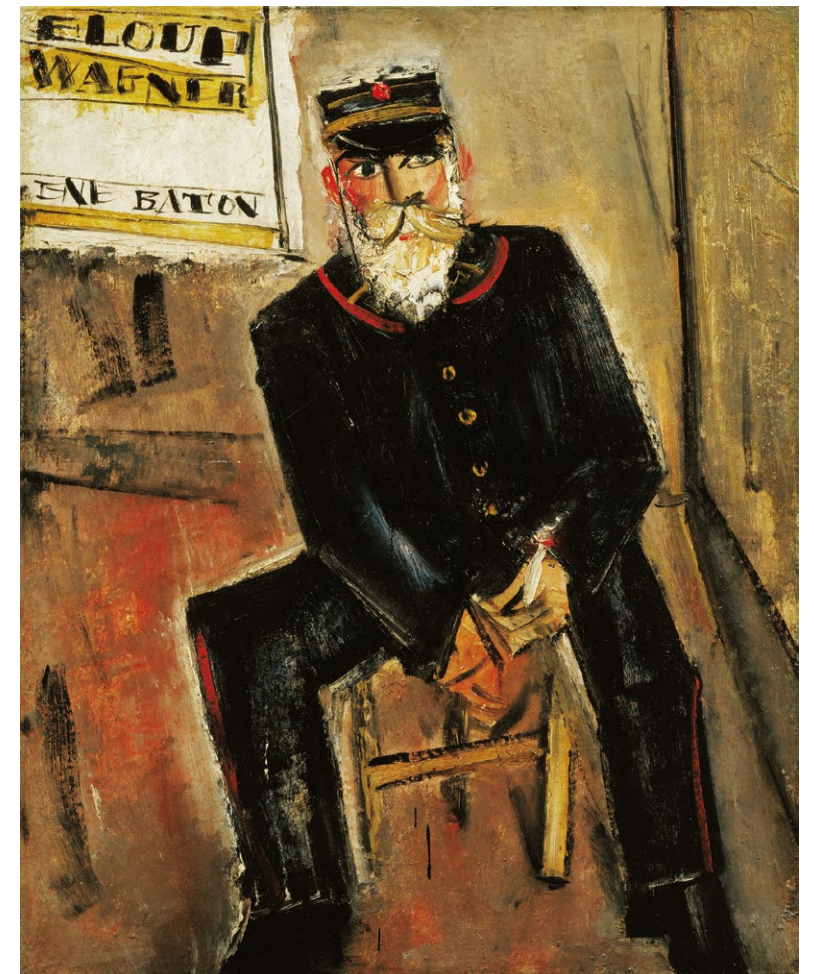
佐伯祐三

現在の大阪市北区に生まれた天才画家・佐伯祐三(1898—1928)のコレクションにおいて、新しい美術館は第一級の規模と内容を誇ります。

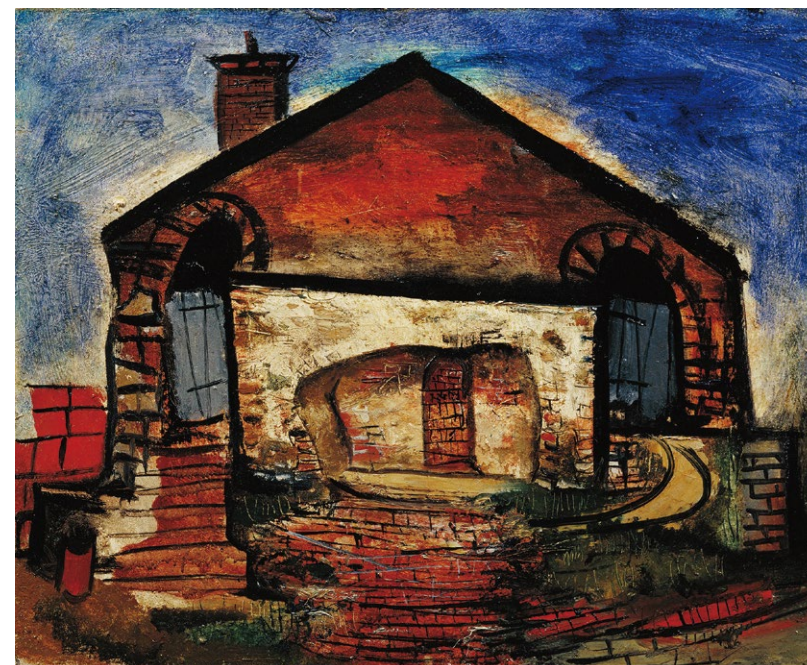
佐伯祐三は北野中学校(現・大阪府立北野高等学校)から東京美術学校(現・東京藝術大学)へ進み、卒業後フランスへ渡ります。パリの街並みを描くことに生涯を捧げ、惜しくも30歳の若さで病没しました。佐伯芸術の真価を最初に見いだしたのは、大阪の実業家で美術コレクター・山本發次郎でした。戦災を免れた収集品のうち、代表作を含む31点が1983年にご遺族から大阪市へ寄贈されました。今日、新しい美術館は寄託品を含めて約60点の佐伯祐三作品を収蔵しています。



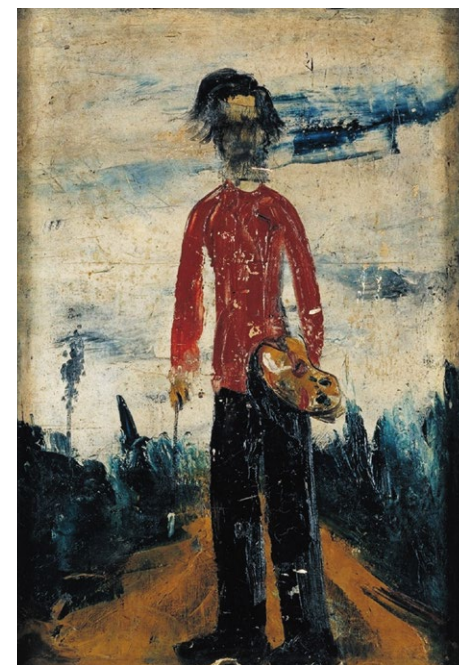
1



3



2



4

日本の近代美術

岸田劉生や福田平八郎など、明治から昭和初期の時代に活躍した芸術家の作品を所蔵しています。小出楢重や赤松麟作、村上華岳や北野恒富など大阪ゆかりの芸術家も豊かに活動を展開し、優れた作品を残しました。公立美術館として今後も近代大阪の美術に関する調査研究をすすめ、作家や作品の価値を後世に伝えてまいります。



1



2



3



4



5



6

山本發次郎コレクションと美術館

佐伯祐三芸術の真価をいち早く認めた山本發次郎(1887—1951)は、大阪でメリヤス事業を営むかたわら、独自の個性的な審美眼で美術品を選び抜いた収集家として知られます。第二次世界大戦で芦屋の自宅が被害を受け、所蔵品の多くを失いますが、戦火を免れた作品574件が1983年にご遺族から大阪市へ寄贈されたのが、近代美術をテーマとする大阪の新しい美術館計画の出発点でした。代表作を含む佐伯祐三のほか、近代洋画、墨蹟232件、アジアの染織品288件による山本發次郎コレクションは、美術館の開館前から調査研究と展示が行われています。

[左]《インド更紗》17～18世紀 [右] 白隠《鼠大黒》18世紀



西洋近代美術

世界に誇るモディリアーニの裸婦像、パスキン、キスリング、ブランクーシなど、エコール・ド・パリの充実したコレクションは国内外に知られています。また、野獣派、キュビズム、ダダ、シュルレアリスム、未来派、構成主義など、20世紀前半にヨーロッパを中心に展開した前衛的な芸術潮流を語る作家の代表作を所蔵しています。

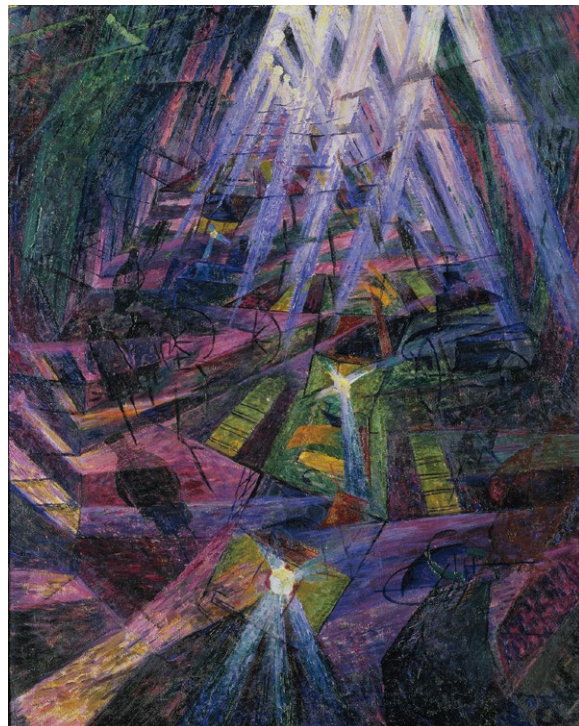


1



2

©SIAE, Roma & JASPAR, Tokyo, 2019 C2664



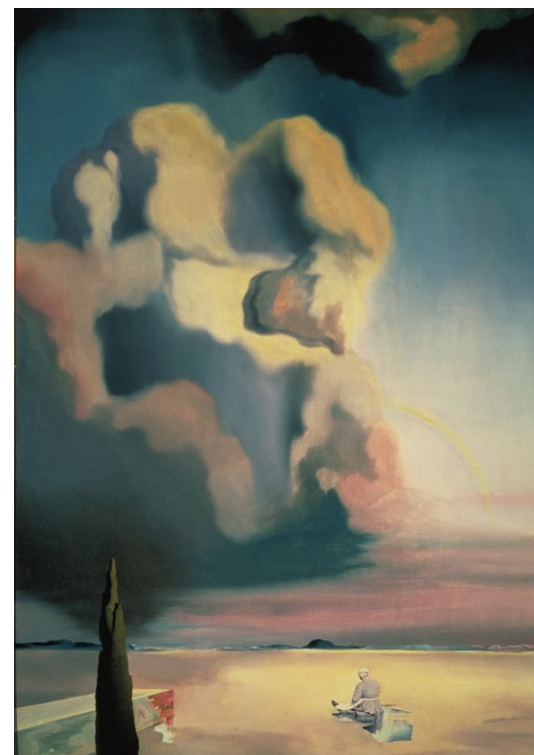
3



4



5



6

©Salvador Dalí, Fundació Gala-Salvador Dalí, JASPAR Tokyo, 2019 C2664



7



8

1 アメデオ・モディリアーニ《髪をほどいた横たわる裸婦》1917年 2 ジョルジョ・デ・キリコ《福音書的な静物》1916年 3 ウンベルト・ボッチョーニ《街路の力》1911年 4 マリー・ローランサン《プリンス達》1908年 5 ルネ・マグリット《レディメイドの花束》1957年
6 サルバドル・ダリ《鐘と幻影》1934年頃 7 ジャン・ハンス・アルプ《植物のトルン》1959年 8 キスリング《オランダ娘》1922年

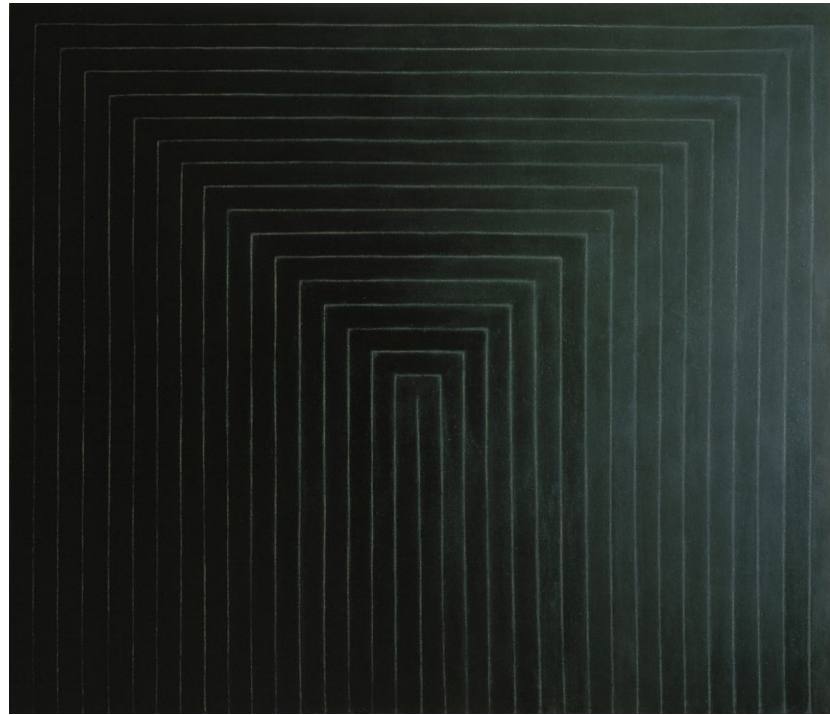
デザイン

19世紀後半のアーツ・アンド・クラフツ運動から、アール・ヌーヴォー、20世紀のウィーン工房、デ・スティール、バウハウス、北欧のアアルトなど、西洋近代の芸術思潮と相まって地域的な広がりをもせたモダン・デザインの流れを示す作品を所蔵しています。2012年にはサントリーポスターコレクション(約18,000点)が寄託され、世界と日本のグラフィックデザインの優れた作品群が加わりました。



20世紀後半から今日の美術

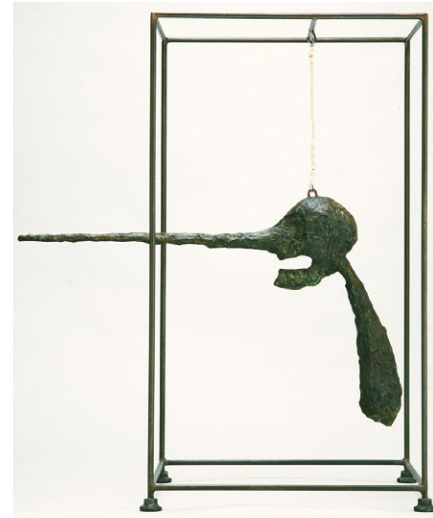
第二次世界大戦後から今日にいたる代表的な日本人作家に加え、アメリカの抽象表現主義やミニマル・アート、ヨーロッパから国際的な広がりをもせたアンフォルメル、アルテ・ポーヴェラをはじめ、個性的な創作で時代を築いた海外作家の作品を所蔵しています。大阪や関西を拠点とする優れたアーティストや、国際的に活躍する日本の現代作家の作品も重要なコレクションです。



1 ©Frank Stella / ARS, New York / JASPAR, Tokyo, 2019 C2664



2



3



4



5

©The Estate of Jean-Michel Basquiat/ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2019 C2664

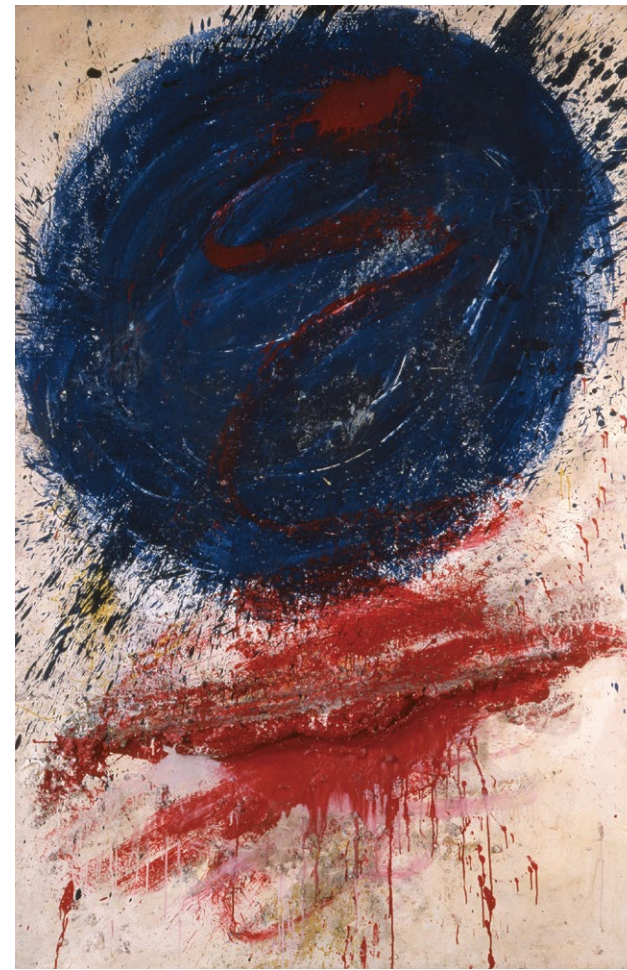
1 フランク・ステラ《ゲッティ・画廊第1ヴァージョン》1969年 2 森村泰昌《美術史の娘（劇場A）》1980年 3 アルベルト・ジャコメッティ《群像》1947年 4 三木富雄《バラの耳》1962年 5 ジャン・ミシェル・バスキア《無題》1984年

吉原治良と具体美術協会

新しい美術館では、戦後日本を代表する芸術運動のひとつである「具体美術協会」(具体)のリーダー・吉原治良の作品を約800点、会員の作品を約100点所蔵しています(2019年3月現在)。新しい美術館は、「具体」の活動拠点であった「グタイピナコテカ」がかつて所在した中之島に開館する予定です。「具体美術協会」関連資料のご寄贈を受け、「具体」研究と発信の国際的な拠点となるべくアーカイブの構築をすすめています。



1



2



3



4



5



6

©Kanayama Akira and Tanaka Atsuko Association



7

1 吉原治良《作品》1965年 2 村上三郎《作品》1962年 3 吉原治良《作品A》1939-40年頃 4 元永定正《作品》1960年 5 嶋本昭三《962-1》1962年 6 田中敦子《作品(片面)》1961年 7 白髪一雄《ミスター・ステラ》1958年

新しい美術館の

活動方針

special/temporary exhibitions

特別／企画展覧会

新しい美術館は、近代から現代にいたる美術や造形文化を中心に、国内外のさまざまなジャンルの優れた作品や動向に注目した展覧会を開催し、その力を最大限に生かして驚きや感動 ― 心が揺すぶられ、わくわくする体験の場をつくります。さらに、これまでにない視点、新しい美術館の独自のアングルから、作品や作家、美術の流れやそれらを取りまく状況をとらえて、新しい意味や意義を開拓する企画や、今まさに展開する美術制作を現在進行形で追う試みなど、〈アート〉の新しい価値を大阪から世界に発信し、問いかけていきます。

collection displays

コレクション展示

新しい美術館が誇る5,700点(2019年3月現在)によるコレクションを、多彩なテーマによって紹介します。コレクション展示は、美術館の“顔”であるモディリアーニや佐伯祐三に出会える場所であり、新しい美術館のコレクションの広がりや深みにふれる機会となります。特に、世界的に評価の高い大阪の戦後美術運動「具体」と具体を牽引した吉原治良の魅力を、専用展示室〈グタイピナコテカルーム〉を通して多角的に発信していきます。また、訪れるたびに新たな発見や気づきを刺激することをめざして、新収蔵作品や研究の充実による新知見の発表を含め、変化するコレクション展示を継続していきます。

art platform

連携

新しい美術館は美術館の機能を拡張します。美術品の収集や保存、展示という美術館の基盤をしっかりと整えながら、その上にさまざまな人が集い、流れ、出会う〈プラットフォーム〉としての美術館、さらにはアートを介して人びとを結んでいく〈つなぎ手〉としての新しい公共施設をめざします。新しい美術館は、美術の状況を一方的に伝えたり、教えたりすることはありません。常にどのような事業やプログラムにおいても〈学びあう〉ことをぶれない軸とします。その軸を中心に、多様な背景や目的をもつ人びとと〈ともに〉経験をつくり、積みあげていきます。

また、大阪は民都であり商都です。新しい美術館はさまざまな企業や団体、大学をはじめとする研究機関との協働を、美術館の大きな動力のひとつと考えます。あらゆる機能を囲い込み閉じられた殿堂となることなく、柔軟な方針と軽快で機動力のあるチームが、美術館の外、都市と地域のなかで事業と研究のネットワークを編みあげていきます。

archives

アーカイブ

新しい美術館はアーカイブの構築と運営を美術館の主要事業のひとつとして位置づけます。開館後はアーカイブ室を設置して調査や閲覧に対応し、貴重な資料群の公開と活用を行ってまいります。その柱のひとつが具体美術協会に関するアーカイブで、「具体」の調査研究センターとしての機能を果たすとともに、作品と資料が同じ施設にあることを活かし、グタイピナコテカルームなどで資料と作品との相乗的な展示を図ります。また、家電製品を中心とした工業デザイン製品のデジタルアーカイブを、インダストリアルデザイン・アーカイブズ研究プロジェクト(IDAP)として進めています。その他、広告史に関する萬年社の貴重な資料群や、新しい美術館の整備や活動に関する資料群なども、アーカイブとして整備していく予定です。



具体美術協会会員たち 「具体」アーカイブ 所蔵資料より



これまでの

活動

exhibitions

展覧会

新しい美術館では、1989年の「大阪市制100周年・近代美術館構想記念〈佐伯祐三とエコール・ド・パリの仲間たち〉展」を皮切りに、「心斎橋展示室」(旧出光美術館大阪|2004～2012)、大阪市立美術館、大阪歴史博物館、国立国際美術館、大阪府立江之子島文化芸術創造センター、ATCミュージアム、サントリーミュージアム[天保山]、芦屋市立美術館博物館、民間施設などを会場に、これまで60回を超える展覧会を開催してきました。コレクション展示を主体としながら、将来の活動をみすえ、特別展として、エルミタージュ美術館展、ボルドー美術館展、佐伯祐三展、吉原治良展、ピカソ展、大阪の美術を特集したさまざまな展覧会、デザイン展なども行ってきました。全国巡回した佐伯祐三展や吉原治良展では、新しい美術館のコレクションが主要な役割を果たしています。



outreach programs

連携事業

新しい美術館では、準備室開設当時からミュージアムトーク、こども向け鑑賞プログラム、美術講座などを実施してきました。2013年からは開館後の活動をみすえ、「連携」を普及活動の軸としています。外部機関や優れた人材と手を結び、アーティストや講師の方々とプロセスを共有し、市民やこどもが主体的に参加できるプログラムに取り組んできました。事例の一部をここにご紹介します。※詳しくはウェブサイトをご覧ください

こども① アートフォーラム〈こどもとアート〉の現場を考える

こどもを対象とした鑑賞や制作のワークショップ、おとなを対象としたトーク&ディスカッションを行い、こどもとアートをつなげる可能性を4年間かけて模索しました。

市民② 市民キュレーターワークショップ

公募による市民が、大阪府20世紀美術コレクションの中から作品を選んで展覧会づくりを体験し、これまでに20名以上の市民キュレーターが誕生しました。

学校③

地元の学校教員を対象とした「アーティストに学ぶ・素材と発想」(2013)、「小学生とアーティストがともに学ぶ鑑賞ワークショップ」(2014)など、アーティストと学校現場をつなぐ機会を創りました。

地域④

大阪市24区役所で文化事業に関するヒアリングを行い、地域に特徴的な資源を活かす試みとして、「キッズの(はいざい)ワークショップ」(東成区)、「ピンホールカメラ・ワークショップ」(港区)、「こども猿楽 水の祭り〜工作と身体表現ワークショップ」(城東区)などを開催しました。

図書館⑤

「新美術館×図書館 わくわくコラボ」をシリーズで展開し、「観る本?読む美術!ブックデザインの愉しみ」(2014)、「(Wikipedia ARTS)大阪新美術館コレクション」(2015)、「春日出のおばけ煙突」と「だまし絵」(2016)など、学芸員と司書がそれぞれの専門性を活かす講座を開きました。

デザイン⑥

デザイナーや建築家などのクリエイターを講師に、市内の中学生在が課題を創造的に解決するデザインのワークショップを行い、その成果を公開ディスカッションで共有しました(2015)。



NAKANOSHIMA MUSEUM

OF ART, OSAKA

Project

The City of Osaka has been promoting the project of a new art museum, namely Nakanoshima Museum of Art, Osaka, specialized in modern and contemporary art of Japan and the world. Prior to its opening, the museum planning office, established in 1990, has been engaged in museum activities such as organizing exhibitions and outreach programs, acquisition and loan of art works. In February 2017, the winning design was selected through an international competition for the new museum building, and our project has taken a large step forward for the museum’s prospective opening in FY2021.

Location

Osaka is the second largest city of Japan in terms of daytime population, a city of fascination with an increasing number of visitors from overseas. The Museum will be located in Nakanoshima, a district near the northern city center with a number of public offices, business premises and cultural facilities. The new museum will enhance cultural appeal of the area, along with the National Museum of Art, Osaka, Osaka Science Museum, Museum of Oriental Ceramics, Osaka, and the Kosetsu Museum of Art, Nakanoshima.

Collection

The Museum houses over 5,700 pieces in its collection, including valuable art and design works of Japan and the world from mid-19th century up to today (as of March 2019). The collection includes a number of masterpieces celebrated in the art history, such as Amedeo Modigliani’s *Reclining Nude with Loose Hair*, 1917, Umberto Boccioni’s *The Forces of a Street*, 1911, Alberto Giacometti’s *The Nose*, 1947. The collection is noted for the substantial number of paintings by Yoshihara Jiro, leader of Gutai Art Association and the works created by its members.

Activity

The Museum will hold special exhibitions with various themes related to modern and contemporary art and design of Japan and the world, in the exhibition space of 1700 square meters, along with its permanent collection display. The Museum will collaborate with other public institutions, private companies and individuals to develop its programs and strengthen academic grounds related to its collection and activities. The Museum has launched on the archive project, including the Gutai papers and records, and the Industrial Design Archives Project.

Museum Construction

The winner of our architectural design competition is Mr. Endo Katsuhiko of Endo Architect and Associates, based in Tokyo. The new museum will go through basic design, detailed design and construction, for its expected completion in 2021 and a prospective opening to the public in early 2022. The building will adopt quake-absorbing structure, and the safety of art works is assured against water by locating the exhibition and storage spaces on the third floor or above.

ご 寄 付 の お 願 い	大阪市は、新しい美術館の整備へのご寄付をお願いしております。
すでにこれまで、さまざまなご篤志、ご支援、あるいは作品のご寄贈、ご寄託をいただいており、あらためて心より感謝申し上げます。 そしてこのたび整備事業が具体化、本格化するなか、より多くの市民、企業の皆さまにご寄付をお願いしていく一方で、ご寄付いただきやすいプログラムや制度を整えてまいります。	

大阪中之島美術館
整備計画パンフレット コレクション編

2019年発行
デザイン＝株式会社サトウデザイン 佐藤大介
印刷＝アート印刷株式会社

大阪中之島美術館準備室
〒553-0005 大阪市福島区野田1-1-86
大阪市中央卸売市場本場業務管理棟8階
Tel. 06-6469-5186 Fax. 06-6469-3897



